

「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会報告

1. 開催日 第1回：8月28日（月）、第2回：10月2日（月）、第3回：10月31日（火）
2. 会場 さいわいプラザ 6階 会議室
3. 構成員 《部会員》 ※敬称略
池田 浩、櫻井 真理、桃生 鎮雄、児玉 優子、横澤 勝之（子ども・子育て会議委員）
八子 元（主任児童委員）
本間 良子（スクールソーシャルワーカー）
平澤 一郎（長岡こども・医療・介護専門学校）
《アドバイザー》
小池 由佳
《関係課》
福祉課、生活支援課、学務課、学校教育課、子ども家庭課、保育課、青少年育成課

4. 内容

- (1) 第1回 講義「子どもの貧困」とは何か 講師 小池アドバイザー
「子どもの貧困」の定義と全国的なデータ、国・施策の動向、事例からみる今日の子どもの育ち・子育て支援、子どもの貧困の解決の視点などについてお話いただき、理解を深めた。
- (2) 第2回 グループワーク「子どもを貧困から救うために～私たちにできることは何か～」
長岡市で実施している「子どもの貧困対策に関わる支援策」を確認した上で、部会員が日ごろ子どもや保護者からの相談や悩みを見聞きしている中で感じている課題を挙げ、それに対して考えられる解決策について検討した。

～テーマ1「子どもの貧困」について、現場で感じている課題～

- ① 「貧困」に関する窓口がよくわからない
・施策は数多くあり、充実しているが、貧困家庭をどうやって対応する施策へ結びつけるか
- ② 「貧困」の見つけにくさ
・学校では、今起きている表面的な問題の解決しかできず、その背景にある問題までは踏み込んでいくことは難しい
- ③ つながり・気づきの欠如
・貧困から虐待に連鎖するケースが多い
・子どもの問題行動の背景に貧困があるのではないか
- ④ 支援の有効性はどうか
・金銭的支援が各家庭で有効に活用されているか疑問

～テーマ2「子どもの貧困」についての解決策のポイント～

- ① 自己肯定感を向上させる
・「貧困」自体をどうするかというより、子どもたちに自己肯定感や自信を持たせることは小さな進歩だが将来にわたり非常に大切なこと
- ② 事前支援と事後支援
・何か起きてからの支援策は整っているが、何か問題が起きる前からの支援策が必要

・核家族化や地域のつながりの欠如により、子どもとのふれあいの場面や経験が不足している時代であるため、親になる前に生活習慣や食育について教えていく必要がある

③ 今ある体制の見直し

・新たな専門機関を作るのではなく、今ある支援体制の枠組みの中に「子ども」を入れていく

④ 地域のつながりを活用

・主任児童委員会を中心に地域のつながりを強化し、子どもを対象とした地域包括ケアシステムが理想

(3) 第3回 グループワーク「子どものいる世帯の状況調査の項目検討」

平成28年度に新潟県が実施した「新潟県子育て世帯調査」の調査項目（別紙）をベースとし、長岡市として追加したい項目を検討した。

○お子さんについて

- ・生活習慣、食事について（起床・就寝時間、休日の昼食）
- ・学習面について（学習の理解度、家庭学習時間）
- ・教育にかかる金銭面（教育にかかる経費の負担、進学に関して不安なこと）
- ・不登校の経験があるか
- ・熱中していること、頑張っていることがあるか

○お子さんとの関係

- ・子どもとの関わり（一家団欒の食事の頻度、お手伝いの習慣）
- ・子どもに手を挙げたことがあるか

○職業・収入

- ・収入・生活の満足度（収入に満足しているか）
- ・ひとり親の養育費（養育費の取り決めをしているか、養育費を受け取っているか）

○現在の暮らし等

- ・子ども食堂の認知度（子ども食堂を知っているか、子ども食堂に行ったことがあるか）
- ・生活の満足度（今の生活に満足しているか）
- ・お金の使い方（支払いの滞納をしたことがあるか、1か月の項目別支出額）

○その他

- ・親の子育て力（子育てに関する学びを受けたことがあるか、親の育った環境）
- ・親の経済力の連鎖（親の経済状況が子どもの将来の状況に影響されないために必要なこと）
- ・行政サービス（市のサービスで助かっているものはあるか）
- ・地域活動に参加しているか

※上記のほか、新潟県の調査項目の加除修正すべき点も挙げられた。

5. 今後の予定

部会での御意見をもとに、今年度中に調査項目を固め、平成30年度早々に業者に調査を委託。来年度も引き続き「子どもの貧困対策についての検討」ワーキング部会を開催し、調査結果の共有、今後の対応について検討していきたい。